

1 令和6年度の学校運営について

令和6年度学校経営重点取組事項

- 1 学校教育目標・目指す児童生徒像・学校像の実現に向け、学部・分掌部における令和5年度の課題改善に気実に取り組むとともに学習指導要領に基づく教育活動の充実を図る
 - 各部・分掌部ともに、昨年度の反省から今年度の重点取組事項を決め、計画的かつ組織的に課題解決に取り組み、おおむね目標を達成することができた。(各部・分掌部の自己評価参照)
- (1) 自立活動の充実
 - 課題関連図に基づいた指導計画の策定及び指導実践に係る専門性のさらなる向上とチェックリストの見直し・活用
 - 3名の職員が自立活動の研究授業を行い、授業研究会で意見交換をした。また、外部専門家を活用した相談会や研修会の開催、指導実践例や教材の紹介など、自立活動部主導で幅広く学ぶ機会があった。
 - チェックリストについて、小中高で様式を統一してチェック項目の策定まで進んでいる。次年度は実際に活用して、有効性を確認する予定である。
- (2) 小・中・高等部一貫した教育課程の編成と系統性のある指導の充実
 - 各教科等における小・中・高等部の系統性のある年間指導計画の見直し
 - 国語・算数(数学)と生活単元学習を取り上げて、学習内容の整理と年間指導計画について、小中高の系統性のすり合わせをした。学部によって時数の違いがあるので、次年度以降、実践しながら修正していく。
- (3) ICT教育の充実
 - 授業におけるICT機器の活用の推進及び休業中におけるICT機器を活用した学習の推進
 - 各部においてICT機器を活用した研究授業を実施した。児童生徒、職員ともに活用頻度が高まっている。次年度は、より実践を重ねて活用方法や学習効果を検証する。
 - 児童生徒のタブレット持ち帰りは、長期休業中のみの持ち帰りを含めて、小学部9名、中学部18名、高等部43名であった。
- (4) キャリア教育全体指導計画に基づいたキャリア教育の推進
 - 小・中・高等部の系統性の確認とキャリアパスポートの活用
 - 卒業後の生活を豊やかにするために、進路指導の充実と関連付けて、キャリアパスポートを活用する際の取組や教師が意図する内容を整理している。
- (5) 児童生徒の特性に配慮した個別最適な学びの実現
 - 自閉症指導に対する専門性の向上
 - 先進校が作成した自閉症指導書を参考に、研究・研修を進めている。指導経験が浅い職員も在籍しているため、各部で指導事例を取り上げて障害特性を理解した支援や指導の在り方を見直している。
- (6) 進路指導の充実
 - 小・中・高等部の系統性のある進路指導計画の見直し
 - 保護者に対する進路指導情報の提供
 - 「時代のニーズに合った進路指導の充実」に向け、「高等部卒業後に求められる力」から、小学部、中学部、高等部の各段階における進路指導を系統的に整理した。
 - 小中学部の保護者には、授業参観の際にB型事業所と生活会議についての進路研修会を実施した。「進路のしおり」の改訂版を作成中で、保護者、職員に配付して「進路」についての知識を高めたい。
- (7) 登校や授業参加が難しい児童生徒への関係機関と連携した対応の充実
 - 外部専門家、SC、SSW、県教育センターの教育相談機能等の有効活用
 - 定期的な校内ケース会議の実施
 - 遠隔授業による学習機会の提供
 - SC・SSWへ相談して助言を受け、支援会議・ケース会議を開いて状況の把握や支援内容・方法等の確認ができた。また、登校が難しい児童生徒や特定の場所に入ることが難しい児童生徒に対して、遠隔通信で授業参加する機会を設けている。
- (8) 児童生徒の人権を意識した指導の徹底
 - 体罰・不適切な指導の根絶に向けた日頃からの声掛けと職員研修の実施
 - 日頃から児童生徒及び職員の人権を意識した言動をするように呼びかけている。
 - 服務規律強化月間(4月、8月、12月)に、研修会を開催して職員の意識向上を図った。
- (9) 特別支援学校におけるスポーツ・文化芸術活動の推進と豊かな生活の実現

- 児童生徒作品の校内掲示の充実と各種作品展等への応募の推進
- 各種大会や作品展等への積極的な参加の推進
- 各部、積極的に校内で作品を展示しており、児童生徒の達成感や自己肯定感に繋がっている。また、中学部は中文祭作品展、高等部は高文祭作品展、特別支援学校高等部作品展、高等学校大村美術展などに出席した。
- 高等部は、スポーツ庁主催の「アスリート派遣等による体育授業等の充実・高度化の促進事業」により、陸上競技800m元日本記録保持者の徳田由美子氏を招いて体育の授業を実施した。
- 陸上部、サッカー部、バドミントン部は、各種大会に参加している。サッカー一部は、数年ぶりに勝利し、生徒の励みになった。バドミントン部は初めて特別支援学校間の大会を開催した。

(10) 安心安全な学校運営の推進

- 校舎内外の環境整備と安全点検の実施
- 感染症等防止対策の徹底
- 不審者対応や自然災害時などの避難訓練の実施
- 毎月の安全点検と管理職による校内巡視により、危険個所の早期発見・対応に努めている。
- 手洗い、うがい、手指消毒等を励行し、感染症予防に努めている。インフルエンザや新型コロナなどの感染はあるが、集団感染には至っていない。
- 年間をとおして、地震・火災避難訓練、不審者対応訓練、児童生徒捜索訓練、救急救命訓練などを実施し、高等部新校舎完成後は、避難経路の再設定を行い、実際に避難訓練を実施して確認した。

(11) 積極的な情報発信による、本校教育の広報及び理解・啓発の促進

- 学校ホームページの更新、学校通信・寄宿舍通信等の発行
- 学校通信は、毎月発行して学校全体の状況を発信している。主な行事についての情報発信は適宜行っているが、職員の業務負担になることもあり、担当者任せにならないようにしたい。

(12) 本校主幹業務の計画的・円滑な推進

- 長崎県特別支援学校（知的障害教育校）進路指導連絡協議会
- 長崎県特別支援学校養護教諭研究会
- それぞれ滞りなく運営できた。今後、次年度事務局校へ引き継ぐ。

(13) ろう学校及び郡中学校との連携の充実

- 行事の実施や運動場使用におけるろう学校との協議の実施
- 交流学习や農地使用における郡中学校との連携
- 運動場使用については、ろう学校と毎月調整会を開いて確認している。
- 郡中学校とは、特別支援学級との交流会、農地借用、駐車場借用などで連携している。

(14) 持続可能なPTA活動の推進

- 広報部は広報誌の作成・発行、ベルマーク部はベルマークの集計作業、交流部は除草作業と作業後の交流会、研修部は学校の進路指導部と合同で「障害者福祉サービス利用のための事業所説明会」開催など、執行部役員を中心に各専門部で活動した。負担感を軽減できるように活動内容を検討している。

(15) 令和9年度対馬分校開設に向けた県教育委員会及び対馬市教育委員会との連携

- 県教育委員会、対馬市教育委員会と情報交換しながら準備を進めている。設計業者が決まり、次年度以降、教室の改装工事や地域住民への啓発などに着手する予定である。

2 保護者の信頼に応える学校事務運営を図る。

- 適切な予算執行・会計処理及び教育環境の改善への取組を推進
- 高等部新校舎増築の安全な工事と新校舎完成後の円滑な教室移動等の推進
- 今年度実施された監査では、大きな事務処理上の問題点等は指摘されなかった。
- 高等部新校舎は、大きな事故等もなく無事に完成した。夏季休業中に教室移動及び教材・教具などの整理をし、2学期から活用している。

3 寄宿舍と学校・家庭との連絡・連携体制の強化を図り、円滑な寄宿舍運営に努める

- 寄宿舍生活の充実に向けた家庭との情報共有と寄宿舍指導員の専門性向上
- 寄宿舍通信の計画的な発行
- 保護者、学級担任、関係機関等と話し合う機会を設け、支援方法の共通理解ができた。
- 清掃指導について、工程表やチェックリストを作成した。今後、誰が指導しても同じ視点で指導できるようになり、次年度は実践していく。
- 寄宿舍通信を計画的に発行し、ホームページにも掲載している。

2 学校評価の結果と改善策について

(1) 自己評価の結果について

【改善策を検討する視点】

- ① 自己評価表1、2 ⇒ 評価が低かった項目（C及びD）
- ② 教職員、児童生徒、保護者アンケート
 - ・ 平均値が中央値である2.5ポイントを下回った項目。
 - ・ 昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目。
 - ・ 「達成度」が75%を下回った項目。
※達成度とは、4段階評価で「4」又は「3」と評価した人の割合。達成度という考え方を
用いると、平均値の比較だけでは見えない評価の内訳を分析することができる。
 - ・ 自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断した項目。

① 小学部の取組 ※資料1の1-2ページを参照

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

② 中学部の取組 ※資料1の2-3ページを参照

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

③ 高等部の取組 ※資料1の3-5ページを参照

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

④ 高等部対馬分教室の取組 ※資料1の5-6ページを参照

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

⑤ 各分掌部の取組 ※資料1の7-17ページを参照

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

⑥ 寄宿舎(舍務部)の取組 ※資料1の17-18ページを参照

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

⑦ 事務部の取組 ※資料1の18ページを参照

- ・ 4段階（A、B、C、D）評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

⑧ 教職員アンケートの結果 ※資料2の1-2ページ、資料3を参照

- ・ 回答方法は、校務用PCやタブレットPCなどから回答できるように、基本的に web アンケート (Forms)とし、希望する教職員にはアンケート用紙を配付して実施した。
- ・ 回答者数は177名（小学部40名、中学部28名、高等部62名、高等部対馬分教室8名、管理職・事務職員・寄宿舎指導員等42名）で、回答率は100.0%だった。休職中の教職員を除いて全員が回答した（ただし、高等部対馬分教室3名分が反映されなかった）。
- ・ 全体集計の平均値は、3.2ポイントから3.5ポイントの範囲にあり(昨年度は3.1から3.5)、中央値である2.5ポイントを下回った項目はなかった。また、昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・ 全体集計の達成度は、88.1%から100%の範囲にあった(昨年度は81.0%から99.4%)。達成度が75%を下回った項目は全体集計ではなかったが、高等部集計のNO.9「交流及び共同学習」が61.8%(昨年度は68.8%)だった。
- ・ 自由記述には、多くの先生方から意見や要望があった。内容は、会議や行事に関する事、学習環境に関する事、教育課程に関する事などが多かった。【別紙参考資料参照】

(2) 外部アンケートの結果について

① 「児童生徒アンケート」の結果 ※資料2の3-4ページ、資料3を参照

- ・ 昨年度から児童生徒の意見や要望を把握するために実施するようになった。あくまで回答可能な

児童生徒を対象にし、無記名での回答とした。回答方法は基本的に紙媒体での回答としたが、webでも回答できるようにし、「回答できる児童生徒のみの実施で可」に「回答できる項目のみの回答で可」という条件付けをした上で回答してもらった。高等部の多くの生徒から web 回答をもらうことができた。

- ・回答者数は 202 名(昨年度は 179 名)で、回答率は 68%(昨年度は 56.3%)だった。
- ・全体集計の平均値は、3.3 ポイントから 3.5 ポイント(昨年度は 3.2 ポイントから 3.5 ポイント)の範囲にあり、昨年度から平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・全体集計の達成度は、87.2%から 95.2%の範囲にあった(昨年度は 82.7%から 95.4%)。達成度が 75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、中学部の NO.9「部活動」が 66.7%だった。
- ・自由記述には「学校を楽しくするためにはどうすればいいか、意見や考えがあったら書いてください。」という問いに対し、「友達関係に関すること」や「挨拶すること/声を掛けること」などの意見が多かった。また、自分がしたいことについての要望も多かった。

②「保護者アンケート」の結果

※資料2の5、6ページ、資料3を参照

- ・昨年度からアンケート内容を見直して実施している。回答方法は、個人のスマートフォンから回答できるように、基本的に web アンケートとし、web による回答が難しい保護者にはアンケート用紙を配付するようにした。アンケート用紙での回答は若干名で、ほとんどが web 回答だった。
- ・全体の回答者数は 242 名(昨年度は 178 名)、回答率は 77%(昨年度は 56.0%)で、昨年度より多くの回答を得ることができた。なお、回答者数等の内訳は次ページの表のとおりである。

※ () 内の数字は、昨年度の数字。

	小学部	中学部	高等部	対馬分教室	合計
児童生徒数	101 (86)	66 (72)	155 (151)	7 (9)	329 (318)
回答者数	82 (50)	48 (46)	109 (78)	3 (4)	242 (178)
回答率	81.1% (58.1%)	72.7% (63.9%)	70.3% (51.7%)	33.3% (44.4%)	73.5% (56.0%)

- ・web 回答に変更した昨年度は回答率が低かったが、今年度は 70%超の回答を得ることができた。今年度から保護者へのお知らせ(学校評価の依頼文)に「回答票」を記載し、それを担任に提出することで未回答の保護者を確認することができ、回答の促しにつなげることができた。内訳を見ると、高等部対馬分教室の保護者の回答率が低くなっているが、回答票は全員分提出されたとのことなので、回答が Forms へ反映されていないというシステム上の問題かもしれない。次年度は、アンケート回答率をより 100%に近づけられるようにしたい。
- ・全体集計の平均値は、3.3 ポイントから 3.7 ポイント(昨年度は 3.2 ポイントから 3.6 ポイント)の範囲にあり、中央値である 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。また、昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目はなかった(ただし、高等部対馬分教室集計は正確でないため、あくまで参考値として考えたい)。
- ・全体集計の達成度は、91.0%から 98.7%(昨年度は 80.5%から 98.8%)の範囲にあった。達成度が 75%を下回った項目は全体集計ではなかった(高等部対馬分教室は参考値として考える)。
- ・自由記述には、多くの意見や要望があり、内容は、児童生徒への指導や関わり方に関すること、学校行事に関すること、授業参観や学級懇談会の回数に関すること、学部間の連携に関することなどであった。

(3) 改善策について

①改善策を検討する項目等の選定について

【改善策を検討する視点】

- ① 自己評価表1、2 ⇒ 評価が低かった項目（C及びD）
- ② 教職員、児童生徒、保護者アンケート
 - ・平均値が中央値である2.5ポイントを下回った項目。
 - ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目。
 - ・「達成度」が75%を下回った項目。
※達成度とは、4段階評価で「4」又は「3」と評価した人の割合。達成度という考え方を
用いると、平均値の比較だけでは見えない評価の内訳を分析することができる。
 - ・自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断した項目。

ア 自己評価表1：各部等の取組に関して

4段階評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

イ 自己評価表2：各分掌部等の取組に関して

4段階評価で、評価が低かった項目（C及びD）はなかった。

ウ 教職員のアンケートに関して

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、各部別に見ると、昨年度同様、以下の1項目が75%を下回った。 ※資料3を参照

・NO.9 交流及び共同学習 高等部 ⇒ 61.8%(昨年度は68.8%)

⇒ 昨年度の改善策では「実施の可能性について検討する。」とあったが、今年度も75%を下回った。アンケートの主な自由記述内容は以下のとおりであるが、学校評価はあくまで「学校」を主語として考える必要があり、高等部を主語として評価しているため、昨年と同様の低い評価になったと考えられるのではない。

- ・学校間交流、居住地交流は高等部では行われていないから。
- ・高等部では、郡中学校との交流等は行われていないため。
- ・高等部の共同学習は、学校行事では実施されていない。一部の部活動では実施している。
- ・地域との交流学习って、文化祭の年一回でもよいものなのかわからない。

エ 児童生徒アンケートに関して

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、各部別に見ると、以下の1項目が75%を下回った。 ※資料3を参照

・NO.9 部活動 中学部 ⇒ 66.7%(6人回答)

⇒ 昨年度は小中学部ともに回答者0だった。「回答しなくてよい」という一文をつけるべきであった。

- ・自由記述には、「ここを変えてほしい」という意見はほとんどなく、どちらかというところ「〇〇をしたい」という要望が多かった。

オ 保護者アンケートに関して

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目は、全体集計ではなかったが、各部別に見ると、高等部対馬分教室において以下の5項目が75%を下回った。ただし、回答数が3人ということで(7人全員が回

答したということであるが、Formsに反映できなかった?)達成度については参考値とする。

※資料3を参照※参考値

- ・NO.3 交流及び共同学習 高等部対馬分教室⇒66.7% (昨年度 68.8%)
- ・NO.5 人権尊重、体罰防止、いじめ防止 高等部対馬分教室⇒66.7%
- ・NO.9 寄宿舎の運営 高等部対馬分教室⇒50%(昨年度 33.3%)
- ・NO.10 施設・設備の整備、安全管理 高等部対馬分教室⇒66.7%
- ・NO.14 総合評価 高等部対馬分教室⇒66.7%

⇒NO.3とNO.9については昨年度も75%を下回っていた。ただし、NO.9については高等部対馬分教室には寄宿舎がなく、評価が難しいことから「評価項目」として取り扱うかどうかについて検討が必要である。

- ・自由記述には、学校間交流についての要望があった。

(4) 具体的な改善策について

各学部や各分掌とも、評価としては全項目達成している状況ではあるが、課題等について以下のように改善策を挙げている。

【小学部】

ア 授業等の工夫について

※資料1の1-2ページを参照

- ・国語・算数、自立活動の指導計画、指導案などを、職員が共有しやすい形で残し、活用する。
- ・特別活動や行事等で、学部内の児童が交流する時間を設定する。

【中学部】

イ 人権等の教育活動について

※資料1の2-3ページを参照

- ・知的な発達と身体の成長のバランスが取れず、幼さが残る行動が問題になる学齢である。個に応じながらも、集団を意識した行動ができるように、保護者と連携して継続的な指導を行う。

ウ 学習指導要領を踏まえた教育活動について

※資料1の2-3ページを参照

- ・社会科、理科、職業家庭科の時数について、他の教科の内容とのバランスを考慮しながら、実践的に検証する。

【高等部】

エ ICT機器を活用した指導の工夫について

※資料1の3-5ページ参照

- ・情報モラルに関する学習の充実に向けて、「職業」や「LHR」でどのように取り扱うか、検討を進めて来年度の教育課程に反映させる。

オ 安全で安心できる教育環境の整備と設備や環境美化について

※資料1の3-5ページ参照

- ・暑さ対策については、扇風機等を使用したり、別の教室に移動したりしながら、可能な範囲で学習環境を整える。それでも難しい場合は、学習内容の検討を行う。

【高等部対馬分教室】

カ 道徳教育について

※資料1の5-6ページを参照

- ・年度初めに道徳の指導内容と評価について、全職員で共通理解を図り、指導実践を行う。

キ ティーム・ティーチングについて

※資料1の5-6ページを参照

- ・ティーム・ティーチングの在り方についての例を提示し、生徒の実態や学習内容に応じた効果的な指導を実践できるように教科会等で検討する。

ク ICT機器を活用した指導の充実について

※資料1の5-6ページ参照

- ・各教科等における指導において、生徒にとって学習効果が得られるアプリの購入について、教科会等で検討する。

【教職員アンケートから】

ケ 業務内容の精選や平準化について

※資料2の2ページを参照

- ・次年度に向け、分掌主任にアンケートを取って、業務内容の削除やスリム化、移管など具体的

に検討していく。

コ 教材・教具等について

※資料2の2ページを参照

- ・作成した教材やプリント類など、「教材バンク」として共有フォルダ内に整理したり、プリントとして整理するなど、より共有しやすいように工夫していく。

サ 教育課程について

※資料2の2ページを参照

- ・各学部会や教育課程検討委員会などを通して、一人一人が確認できるように明確化を図る。まずは学部内で学部の教育課程について共有を図り、他学部との系統性等についても確認をする。

シ 行事等について

※資料2の2ページを参照

- ・実施方法や内容の検討など、出された意見は学部や校内で十分に吟味し、全体共有を図り、次年度の教育活動に反映させる。

【保護者アンケートから】

ス 行事等に関して

※資料2の5ページを参照

- ・教育環境も考慮しなければならないが、あくまで主語は「教師」ではなく「児童生徒」であるため、実施方法や内容、継続するかしないか等については慎重に検討する。

セ 授業参観や学級懇談の回数について

※資料2の6ページを参照

- ・実施方法や内容、時期などについては要検討

ソ 児童生徒の指導について

※資料2の6ページを参照

- ・児童生徒の指導に対する言葉掛けや態度が適切かどうか、意識した指導を心掛ける。

5 総括について〔確認〕

- ・各部等の自己評価、各分掌部等の自己評価に関しては、「C・D」の評価や達成度が75%を下回る評価は一つも無く、高い水準の評価結果であった。また、「改善策を検討する視点」に該当しない項目についても、これまでの取組をより充実させるという視点で改善策を検討した部署が多かった。それぞれが考えた今回の改善策を踏まえて、各部等においては来年度の重点目標を、各分掌部等においては重点取組事項を設定し、取組の更なる充実を目指す。
- ・教職員アンケートについては、昨年度、評価項目の内容や項目数を見直し、項目数は増えたものの、多くの先生方から貴重な意見を得ることができた。ただ、個人的な視点での意見も多く、苦情の場になっている傾向があるので、いただいた意見は真摯に受け止めるが、より良い学校運営にするために回答する視点の再確認の必要がある。またwebで回答してもらったことにより、集計作業の負担は少なくなったと思う。
- ・児童生徒向けのアンケートは、可能な範囲で回答してもらったが、高等部をはじめ多くの児童生徒に回答してもらうことができた。アンケートを実施することで、児童生徒の意見や要望を把握することができた。
- ・保護者アンケートの回答率は昨年度に比べて大幅に伸びた。昨年度からweb回答してもらっているが、今年度は「回答票」を提出してもらうことで未提出者の把握ができ、担任の促しで回答率が向上したと推察できる。保護者には、これまでと同様にアンケート回答への依頼文書を事前に配付し、回答期間中に一斉メールを送信して回答を促すようにする。また、回答期間を過ぎて回答する保護者も多くなったことから、書面上は回答期日を設定するものの、可能な範囲で期日を過ぎても回答を受け入れるようにしておくことで、より多くの評価が得られると考える。
- ・保護者アンケートの結果については、高等部のNO.3 交流及び共同学習（達成度87.2%）以外の評価項目の達成度は全て90%以上で、評価の平均もほとんどが3.5以上だった。高等部の交流及び共同学習に関しては、昨年度の学校評価の総括でも記述されたように、清掃活動や作業学習の実習等で交流を行っているが、保護者のイメージとしては小学部や中学部が行っている学校間交流や居住地校交流を求められているのかもしれない。ただ高等部として考えると、同様の交流内

容や実施方法はそぐわないと思う。保護者への説明と、前述したように、評価項目の記載内容の検討等が必要ではないだろうか。

6 委員からの助言について

【助言の視点】

- ・ 自己評価の結果の内容が適切かどうか。
- ・ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。
- ・ 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。
- ・ 学校運営の改善に向けた実際の実組がどうか。

〔参考〕「学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕（平成28年3月22日 文部科学省）」